

「新しい難病対策の推進を目指す超党派国会議員連盟」

結 成 総 会

議連結成の経緯

民主党 岡崎トミ子 参議院議員

最初、私たちは議員連盟結成の準備をしようというこいで自民党、民主党、公明党、共産党、みんなの党が世話人として集まりました。そして、この議員連盟をやろうという一言を決めた瞬間、患者会を代表して参加されていた伊藤たておさんが一瞬泣きそうになりました。涙を流しはしませんでした。が、どんなにこの日を待っていたのだろうか、私はその表情を瞬間的にとらえ、ぐっと胸が詰まる思いをしました。

それだけ長年にわたり国会議員に向けて、何とか超党派の国会議員連盟を作ってほしいという熱心な働きかけをいただけてまいりました。超党派の国会議員に一致して取り組んでほしい、政治の状況に左右されず国会議員の人たちに難病対策の応援団になってほしい、そういった願いだと受け止めてまいりました。

6月ぐらいでしたね、JPAの皆さんから新しい難病対策を推進するための超党派国会議員連盟の世話人になってほしいという趣意書が私たち各党に届きました。ちょうど難病対策の中間報告が8月16日に出されましたが、その直後の8月21日にJPAの呼びかけにこえて、第1回の会合を開催いたしました。

第1回では国会が荒れそうな様子でしたが、何としても今国会のうちに議連を設立しようということの意思の確認が行われました。その場で各党の窓口議員を決めまして、8月24日金曜日に窓口議員で協議を行いました。その窓口議員の協議では、今国会中に設立総会を開くこと、民主党、自民党、公明党の3党から会長、幹事長、事務局長の三役を出ささせていただくこと、この3党で設立総会に向けた準備をさせていただくことなどを決めさせていただきました。そして、準備をすすめてきたわけでございます。

何としてもこの国会中に設立総会を開かせていただけて、患者の皆さまの願いにこえていきたいということで、急いで準備をすすめてまいりました。いろんなところで不十分だというご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、短時間の呼びかけ、そして案内にも関わらず、このように大勢の国会議員の皆さんにこえていただきましたこと、この設立総会を迎えることができたことに感激でいっぱいでございます。

以上が今日に至る経過でございます。